

【様式】

令和5年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立松阪高等学校全日制)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	時代の変化に対応し社会に貢献できる人材を育み、生徒・保護者・地域から信頼される進学校を目指します。 < 自主自律 > 校訓である「自主自律」の精神を持ち、自ら考え、自ら行動できる人を育てます。 < 知・徳・体 > 校章に象徴される「知・徳・体」の調和のとれた全人的な発達を図り、地域社会の中心的な担い手となる人を育てます。 < 高い志 > 心豊かな人間性に立脚した「志」を持ち、高い目標を掲げて意欲的に挑戦する人を育てます。	
	(2)	育みたい 児童生徒像 <ul style="list-style-type: none"> ・知的な好奇心や興味を持ち、自ら考え活動する生徒。 ・命と人権を尊重し、思いやりや規範意識を持つ生徒。 ・国際社会で通用する能力やグローバルな視点を持ちつつ、地域社会の活性化や発展に貢献する生徒。
	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・大学受験のための進学指導だけでなく、卒業後の社会を意識させたキャリア教育を行う教職員。 ・創意工夫を凝らした業務の効率化などによる働きやすい職場環境で、いきいきと働く教職員。
	育みたい 教職員像	

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	【生徒】 <ul style="list-style-type: none"> ・学力にあったわかりやすい授業。 ・進路指導に関する知識や見識が高い先生が多い。 ・進路に関する適切に必要な情報の提供。 【保護者】 <ul style="list-style-type: none"> ・進路に関する適切に必要な情報の提供。 ・子どもの学力にあったわかりやすい授業。 ・学校からの情報提供など家庭との連携を深めること。 【中学生】 <ul style="list-style-type: none"> ・入学したら充実した高校生活を送ることができる。 ・松阪高校生の生活や活躍(進学実績や部活動実績)の様子がわかる。 	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	【PTA・PTA 役員】 <ul style="list-style-type: none"> ・信頼して子どもを預けられる進学校 ・学校の様子を知りたい 【地域住民】 <ul style="list-style-type: none"> ・学校からの様々な情報提供 ・地域との交流の機会 【大学】 <ul style="list-style-type: none"> ・より良い生徒の獲得 【卒業生 (南窓会)】 <ul style="list-style-type: none"> ・母校の活躍 ・学校の様子や変化を知りたい 	【PTA・PTA 役員】 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員との協力 ・家庭での適切な教育力 【地域住民】 <ul style="list-style-type: none"> ・学校からの様々な情報提供 ・地域との交流の機会 【大学】 <ul style="list-style-type: none"> ・体験学習などの受け入れ、出前講座の開催 【卒業生 (南窓会)】 <ul style="list-style-type: none"> ・大学生や社会で活躍する方からの生徒への助言 ・生徒の部活動等へ支援

(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>①地域からの松阪高校に対する期待は大きい。教職員が親身になって生徒とコミュニケーションを取っており、松阪高校の良さであると思う。</p> <p>②1人1台端末の購入など、保護者の経済的負担が増加している。今後、負担軽減についても引き続き検討が必要である。</p>
4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・65分授業の中で講義や演習をバランスよく配置し、生徒にとって充実した授業を展開するように努めている。 ・ほとんどの生徒が四年制大学への進学を志望している。 ・1人1台端末を用いた学習活動が効果的に機能するよう、ICT活用について、各教科で教材研究を重ね、授業に生かしている。 ・これまで中止や規模が縮小となってきた学校行事や探究活動について、地域や保護者の理解も得ながら、取組を進めていく必要がある。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・全国や地元で活躍する多くの優秀な人材を輩出した歴史と伝統がある。 ・社会や保護者の学校への要求の増加に伴い、学校の役割の肥大化や課題の多様化・複雑化が進行し、教員の業務量が増大し、時間外労働が日常的に行われている。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>【SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の推進】 SSHを通して、国際舞台で通用する課題探究能力を育成するよう取り組みます。</p> <p>【道徳教育】 生徒一人ひとりが命と人権を尊重し、思いやりや規範意識を持つ人間に成長できるよう指導の充実を図ります。</p> <p>【キャリア教育】 大学受験のための進学指導に注力するとともに、卒業後の社会を意識させて将来の職業や生き方について自覚を促すためのキャリア教育を行います。</p>
	学校運営等

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
【SSHの推進】	<p>【教務部】</p> <p>学校設定教科 SSH「探究」で生徒の活動時間の確保に努めます。また、新学習指導要領の円滑な実施を目指します。</p> <p>(活動指標:次年度入学生教育課程表を策定する)</p> <p>(成果指標:特別編成授業における探究活動時間の確保)</p> <p>【SSH企画推進部】</p> <p>SSH第Ⅲ期の指定に伴って、探究活動をさらに進めていくため、探究活動を指導する教職員の指導力を向上させる取組を行います。</p> <p>(活動指標:探究活動に関する教職員の学習会の実施 1回/年以上、先進的な探究活動を行っている学校視察 1回/年以上)</p>	<p>【教務部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特編授業等を活用して、SSH「探究」の授業時間を確保した。 ・カリキュラム委員会で検討を行い、令和6年度入学生教育課程表を策定した。 <p>【SSH企画推進部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリックに関する研修会(学習会)そして、教務部と連携した講師を招いての研修会(学習会)を開催した。 ・先進校視察として、前期に京都市立堀川高等学校への視察を行いました。後期もオンラインという形で1校予定している。 	
【道徳教育】	<p>【生徒指導部】</p> <p>(1)生徒とのふれあいを重んじるとともに、身だしなみ等について生徒の規範意識を醸成するため、朝の登校時にあいさつ運動と服装指導を行います。</p> <p>(活動指標:登校時指導の教職員数を3名/日以上)</p> <p>(成果指標:おおよその生徒が朝のあいさつを交わしている)</p> <p>(2)携帯・スマートフォンの適正な利用について助言や指導を行います。</p> <p>(活動指標:携帯・スマートフォン教室の開催(1年次にむけ年1回)、全校集会時の呼びかけ年3回以上)</p> <p>【人権教育推進担当】</p> <p>(1)人権に関する講演会及びLHRを実施するとともに、各学年の人権学習をサポートします。</p> <p>(活動指標:各学年における講演会の開催回数を、1回/年以上)</p> <p>(成果指標:松阪地区高人推 人権アンケート(3年生対象)「人権学習について、積極的に受けたし内容もだいたい理解できた」の割合を70%以上)</p> <p>(2)教職員の人権意識を高めるとともに、指導力の充実・向上を図るため、校外研修を含む現職教育を積極的に推進します。</p> <p>(活動指標:教職員の校外等での研修の参加回数を、1人あたり1</p>	<p>【生徒指導部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登校指導はほぼ毎日教員3名が指導にあたった。あいさつはこちらからすればできているが、自発的な挨拶はまだまだである。また、危険の多い正門付近であるため交通指導が主になり身だしなみ指導まではなかなかできなかった。 ・携帯、スマホ教室は1年生を対象におこなった。全校集会でもSNSの使用について注意喚起をした。 <p>【人権教育推進担当】</p> <p>(1)人権講演会を各学年1回ずつ実施。1学年:「部落差別問題」11月 2学年:「障がい者の人権」1月 3学年:「性の多様性」9月 人権LHRの内容 1学年:「これまでの人権学習の振り返り」「部落差別問題」 2学年:「障がい者の人権に関する課題」 3学年:「統一応募用紙と進路保障」「高校生活での人権学習の振り返り」各学年人権LHRについては学年団を主とした教職員による事前学習会・検討会を行った。成果指標 95%(人権学習を積極的に受けた生徒の比率)</p>	

	<p>回／年以上)</p> <p>(成果指標:教職員の人権に対する意識や意欲、人権に関する知識が向上している)</p> <p>(3)生徒のこれまでの人権活動の成果を継承し、さらに人権意識を高めるため、地域や小学校・中学校・県立学校での活動等との連携や交流を図ります。</p> <p>(活動指標:検討回数は、連携・交流の方法や状況に応じて随時)</p> <p>(成果指標:地域や小中・県立学校の人権活動との交流の機会1回／年以上、生徒の人権に対する意識や意欲、人権に関する知識が向上している)</p>	<p>(2)校外研修等への参加は、三人教研究大会、松阪地区高人推学習会等に、延べ30名の教職員が参加した。県教委人権教育課・井波指導主事をファシリテーターに迎え「松阪高校における人権感覚の育成に向けた基盤づくり」をテーマにグループ討議を行った。</p> <p>(3)1学年生徒を中心に、松阪地区高人推の高校生交流事業に積極的に参加した。人推担当者を中心に、久保中校区同推協の学習会等に参加した。</p>
<p>【キャリア教育】</p>	<p>【図書部】</p> <p>生徒の進路実現や職業選択の参考になる資料を重点的に収集、提供します。またそれらの資料の利用促進に努めます。</p> <p>(活動指標:進路関連図書の特集コーナー更新 1回以上／年)</p> <p>(成果指標:進路関連図書が閲覧や貸出でよく利用されている。)</p> <p>【進路指導部】</p> <p>進路指導部及び学年団が連携して進路検討会・研修会を実施し、生徒に対する指導内容の充実を図ります。</p> <p>(活動指標:検討会・研修会の実施回数を各学年4回全体1回以上実施)</p> <p>(成果指標:進路3担(推薦)会議5回以上、2年学力・進路検討会1回以上、1年学力・進路検討会1回以上)</p> <p>【理数科】</p> <p>卒業後の社会を意識させて将来の職業や生き方について自覚を促すため大学の研究室や企業等を訪問し、高度な学問や研究を体験する機会を設けます。</p> <p>(活動指標:大学での研修、大学研究室の訪問、卒業生による大学紹介などの機会を年2回以上設ける)</p> <p>(成果指標:理数科1、2年生の大学等訪問回数を 1回／年以上)</p>	<p>【図書部】</p> <p>進路関連図書の中で、改訂・新版が出ているものは随時更新(2回／年)。「未来設計コーナー」「学習支援コーナー」の図書は年間を通じてよく利用され、「受験対策コーナー」の図書は夏から冬にかけてかなり利用されている。</p> <p>【進路指導部】</p> <p>1,2年については、進路検討会、研修会(講演会)、進路講話、進路指導委員会、合格者体験講話等を実施した。</p> <p>3年については、進路相談会、学力・進路検討会、進路講話等を実施した。</p> <p>【理数科】</p> <p>活動指標、成果指標を達成した。京都研修を実施し、京都大学の各研究所、企業訪問、理数科卒業生による講演会を行った。また、三重大学医学部へ訪問し、医学部進学希望生徒に対して講義、卒業生との交流を行った。いずれもSSH 企画推進部と協力して事業を実施した。</p>
<p>【保健管理・保健教育】</p>	<p>【保健部】</p> <p>心身の健康の保持・増進を図るとともに、主体的に健康な生活を送ることができる生徒の育成を目指し、健康教育の充実を行います。</p> <p>(活動指標:1年生対象「性に関する教育」の実施、ほけんだより年10回以上発行)</p> <p>救急体制の充実を図るとともに、ケガ等の予防教育を行います。</p>	<p>【保健管理・保健教育】</p> <p>健康教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生対象「性に関する教育」:9月に助産師による講演を実施した。 ・ほけんだよりを15回、生徒保健委員会だよりを7回発行した。 <p>救急体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、今年度赴任した教職員に「スポーツ事故防止ハンドブ

<p>【教育相談】</p> <p>【環境美化】</p>	<p>感染症予防の取組を行います。(健康観察の実施、欠席者の早期把握、手指消毒液の設置、保健指導など)</p> <p>【保健部】</p> <p>すべての教育活動を通して、生徒の悩みや不安の解消に向けた支援や対応を行います。</p> <p>(活動指標: スクールカウンセラーによる教育相談を年34回実施、教育相談だより年5回発行)</p> <p>【保健部】</p> <p>校舎内外の清掃美化の徹底に努めます。</p> <p>(活動指標: 大掃除年3回実施)</p> <p>(成果指標: 日々の清掃時のゴミ分別の徹底)</p>	<p>ック」「スポーツ事故対応ハンドブック」の配付をした。</p> <p>・体育祭やスポレク前にはケガや熱中症予防に関する生徒保健委員会だよりを配付した。</p> <p><u>感染症予防</u></p> <p>・新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したあとも、基本的な感染症対策を継続している。</p> <p>【教育相談】</p> <p>・年34回のカウンセリングと教育相談だより年5回発行した。</p> <p>【環境美化】</p> <p>・校舎内外の清掃美化に努めた。</p> <p>・大掃除を年3回実施</p> <p>・清掃時のゴミ分別の徹底をおこなった。</p>
-----------------------------	---	---

改善課題

- ・引き続き SSH を通して国際舞台で通用する課題探究能力(松高力)を育成する取組を行う必要がある。
- ・BYOD による学習活動がさらに学力定着・学力向上につながるよう、効果的な ICT 活用について継続的に研究を重ねて指導していく必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>【地域との交流】</p>	<p>【生徒会】</p> <p>(1) ボランティア活動等への参加を通して、生徒と地域の交流を図ります。</p> <p>(活動指標: 生徒に参加を働きかける件数を4件/年以上)</p> <p>(成果指標: 参加生徒数を30人/年以上)</p> <p>(2) 本校の文化祭に近隣の小学校児童を招待し交流を進めます。</p> <p>(活動指標: 小学校への参加要請件数と参加の可否)</p> <p>(成果指標: 少なくとも1校の児童を招待する)</p>	<p>【生徒会】</p> <p>(1) 松阪市商店街ツアーに参加(生徒会役員)</p> <p>・校内で募金活動実施(生徒会役員・有志)</p> <p>・ピンクシャツデー運動計画中</p> <p>(2) 昨年度同様、人が密になる状態を避けるため、保護者(事前申込制)限定公開で文化祭を実施。</p>	
<p>【情報提供】</p>	<p>【総務部】</p> <p>(1) 本校の保護者を対象に、年2回教育内容や子どもの学習状況について理解を深めていただくため、公開授業を行います。</p>	<p>【総務部】</p> <p>・6月には本校在校生の保護者(約400人参加)を対象に、8月には中学生</p>	

<p>【授業改善】</p>	<p>(2) 中学3年生とその保護者を対象に公開授業を行い、在校生の学習状況や学校生活を見学する機会を提供し、中学生やその保護者が本校を身近なものとして捉えることができるようにします。</p> <p>また、松阪高校の取り組みと魅力を紹介し、本校に対する関心を持たせ、本校への入学意欲を高めるための機会とするため、『高校生活入門講座』を実施します。</p> <p>(3) 生徒の校内外での活動や地域との交流活動の状況をホームページなどで広報するとともに、報道機関への資料提供も積極的に行い、地域とのコミュニケーションを図り、信頼の構築を目指します。(活動指標:月1回以上のホームページの更新と報道機関への情報提供)</p> <p>【教務部】</p> <p>(1) 実施された「大学入試共通テスト」の分析を進め、各定期考査等において実際に作問、検討を行います。</p> <p>(活動指標:各定期考査等において、大学入試共通テストに対応するための思考力養成を目的とした問題を出題)</p> <p>(2) 令和4年度入学生より実施されている観点別評価を円滑に実施するとともに、基準の検討及び改善を行いません。</p> <p>(活動指標:1・2年生の初回授業における、各教科の観点別評価を踏まえた成績に関するオリエンテーションの実施)</p> <p>(成果指標:次年度の観点別評価における具体的基準の策定)</p> <p>(3) 生徒の授業理解度、満足度を向上させるために、各教科で公開授業を実施し、授業研究や協議を通して、授業力の向上を図ります。</p> <p>(活動指標:指定教科による公開授業を実施)</p> <p>(活動指標:校内公開授業週間の実施)</p> <p>(4) 「生徒による授業アンケート」を実施し、教員個々の課題を明確にします。また、その課題を教科や学校全体で共有し、その後の授業改善に活用していきます。</p> <p>(活動指標:全教員・全授業に対して1回/年実施)</p> <p>(成果指標:授業アンケートの「総合的にみて、松阪高校の授業に満足している」の項目について、生徒の満足度 80%以上)</p> <p>(5) 授業やHRにおけるICT機器の積極的な活用を進めていきます。</p> <p>(活動指標:ICT 機器の利用に関する校内研修の実施を 1 回以上/年)</p> <p>(活動指標:各教科における ICT 活用指導計画表の策定、及びそれに基づく ICT 活用実践)</p>	<p>とその保護者(約 950 人参加)を対象にした公開授業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラギ文化ホールで『高校生活入門講座』を中学生とその保護者を対象に実施し、約 850 人が参加した。 ・ホームページの整備や刷新に努めたい。 <p>【教務部】</p> <p>(1) 各教科とも共通テストを検証し問題作成の研究開発を実施している。</p> <p>(2) 1・2年生の授業では、4月当初に全科目で成績に関するオリエンテーションを実施した。また観点別評価については現行の形で改訂を要する事象が発生していないため、次年度も現行の形を継続する。</p> <p>(3) 公開授業を9月に実施。また教育実習期間に併せて校内での公開授業週間を本年度より導入及び実施。それぞれ各教科で授業力向上に活用した。</p> <p>(4) 1・2年生は1月、3年生は12月に Google form を利用して授業アンケートを実施。「総合的にみて、松阪高校の授業に満足している」の項目に関しては1年生83.1%、2年生88.9%、3年生91.7%約90%の生徒が「そうである」または「ややそうである」と回答。授業に関して、一定の満足度は確保できた。また本年度から授業アンケート結果をすべて全体に共有する形に変更し、校内での授業改善により資することができるアンケートとなった。</p> <p>(5) ICT 活用指導計画表を各教科で策定し、各教科でICT活用実践に励んだ。全体での研修会は実施できなかったが、Google for education やロイノートを中心として職場内で情報交換は活発に行われており、ICT活用の土壌は育っている。</p>
----------------------	--	--

【働きやすい環境づくり】	【進路指導部】 1、2年生において、全員受験の模試の結果分析を進路指導部主導で行い、本校生徒の課題点を明確にし、授業改善に活用します。 (活動指標:1・2年生 年3回以上実施)	【進路指導部】 模試の振り返り等を学年主導でLHRなどを使い実施した。
	【組織全体】 (活動指標) (1) 時間外労働時間を 0.3 時間/月削減し 28 時間以下とします。 【 28.0 時間/月】 (昨年度 28.3 時間/月) (2) 休暇取得日数を 1 日/年増加します。 【平均 21.4 日/年】 (昨年度 20.4 日/年) (3) 年 360 時間を超える時間外労働者を出しません。 (4) 月 45 時間を超える時間外労働者を出しません。 (成果指標) (1) 定時退校日を月に1日設定し、設定した日の定時に退校できる職員の割合 90%を目指します。 (2) 部活動休養日を週に1日設定し、予定通り休養日を設定した部活動の割合 100%を目指します。 (3) 60分以内に終了する職員会議の割合を 90%以上にします。	【組織全体】 (活動指標) 4月から1月の集計 (1) 29.6 時間/月 (29.4 時間/月) (2) 18.4 日 (16.9 日) (3) 24 人 (24 人) (4) 130 人 (112 人) ()内は昨年度 (成果指標) (1) 96% (93%) (2) 100% (100%) (3) 19% (3 回/16 回) (36%(5 回/14 回))

改善課題

- ・生徒の校内外での活動等を広報し、地域からの信頼の構築を図るため、次年度もホームページの整備や刷新に努める必要がある。
- ・教員の過重労働は縮減されていない現状があり、今後も引き続き取り組んでいく必要がある。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"> ・市内で開催されるイベントへの参加等を通じて、街中の課題を一緒に考えていく機会にしてほしい。 ・会議資料を事前配付する等して会議の時間短縮を図ることによって、子どもたちと関わる時間を増やすことができるのではないか。
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の指導と、探究活動も含めた生徒の学習の両方において、「基礎学力定着支援シート」や「授業アンケート」の活用、「大学入試共通テスト」の結果分析を活用して PDCA を回すことで、日々の授業改善に生かしていく。 ・ICT を活用した効果的な学習の推進について、「人との関わり」の重要性や教職員の負担増等にも留意しながら丁寧に進める。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・指導や業務を見える化をすることで、縦横の連携強化と業務の平準化を目指す。 ・報告の徹底と情報の共有を進めるための仕組みを整える。